



正の実数  $\alpha$  に対して、関数  $f(x)$  を

$$f(x) = x + \sqrt{\alpha - x^2} \quad (0 \leq x \leq \sqrt{\alpha})$$

とすると、

$$\begin{aligned} f'(x) &= 1 - \frac{x}{\sqrt{\alpha - x^2}} \\ &= \frac{\sqrt{\alpha - x^2} - x}{\sqrt{\alpha - x^2}} \cdot \frac{\sqrt{\alpha - x^2} + x}{\sqrt{\alpha - x^2} + x} \\ &= \frac{(\sqrt{\alpha} + \sqrt{2x})(\sqrt{\alpha} - \sqrt{2x})}{\sqrt{\alpha - x^2}(\sqrt{\alpha - x^2} + x)}. \end{aligned}$$

$0 < x < \sqrt{\alpha}$  において、

$$\sqrt{\alpha - x^2}(\sqrt{\alpha - x^2} + x) > 0, \quad \sqrt{\alpha} + \sqrt{2x} > 0$$

であるから、 $0 \leq x \leq \sqrt{\alpha}$  における  $f(x)$  の増減は次のようになる。

$x$	0	...	$\frac{\sqrt{\alpha}}{2}$	...	$\sqrt{\alpha}$
$f'(x)$		+	0	-	
$f(x)$		↗		↘	

よって、 $f(x)$  が最大値をとるときの  $x$  の値は、

$$x = \frac{\sqrt{\alpha}}{2}.$$

(1)  $f(x)$  において  $\alpha = c$  とすることで、

$$a_1 = \frac{\sqrt{c}}{2}. \quad \dots (\text{答})$$

(2)  $f(x)$  において  $\alpha = a_n$  とすることで、

$$a_{n+1} = \frac{\sqrt{a_n}}{2}.$$

この両辺は正より、底 2 の対数をとると、

$$\log_2 a_{n+1} = \log_2 \sqrt{\frac{a_n}{2}}$$

すなわち、

$$\log_2 a_{n+1} = \frac{1}{2} \log_2 a_n - \frac{1}{2}.$$

よって、 $b_n = \log_2 a_n$  とすると、

$$b_{n+1} = \frac{1}{2} b_n - \frac{1}{2}. \quad \dots (\text{答})$$

(3)  $b_n = \log_2 a_n$  のとき、(1) の結果より、

$$b_1 = \log_2 a_1 = \frac{1}{2} \log_2 c - \frac{1}{2}.$$

また、(2) の結果より、

$$b_{n+1} + 1 = \frac{1}{2}(b_n + 1).$$

よって、数列  $\{b_n + 1\}$  は、

$$\text{初項 } b_1 + 1 = \frac{1}{2} \log_2 c + \frac{1}{2},$$

$$\text{公比 } \frac{1}{2}$$

の等比数列であるから、

$$b_n + 1 = \left( \frac{1}{2} \log_2 c + \frac{1}{2} \right) \cdot \left( \frac{1}{2} \right)^{n-1}.$$

したがって、

$$b_n = (\log_2 c + 1) \left( \frac{1}{2} \right)^n - 1. \quad \dots (\text{答})$$

2

$$C: y = ax^2 + bx + c$$

$$l_1: y = -3x + 3$$

$$l_2: y = x + 3$$

(1) Cと $l_1$ の式から $y$ を消去して、整理すると、

$$ax^2 + (b+3)x + c-3 = 0. \dots \textcircled{1}$$

Cと $l_2$ の式から $y$ を消去して、整理すると、

$$ax^2 + (b-1)x + c-3 = 0. \dots \textcircled{2}$$

$\textcircled{1}, \textcircled{2}$ の判別式をそれぞれ $D_1, D_2$ とすると、条件より、 $D_1 = 0$ かつ $D_2 = 0$ であるから、

$$\begin{cases} (b+3)^2 - 4a(c-3) = 0, \dots \textcircled{3} \\ (b-1)^2 - 4a(c-3) = 0 \dots \textcircled{4} \end{cases}$$

か成り立つ。

$\textcircled{3} - \textcircled{4}$ より、

$$(b+3)^2 - (b-1)^2 = 0.$$

$$8(b+1) = 0.$$

$$b = -1. \dots \text{答}$$

これを $\textcircled{4}$ に代入して、

$$4 - 4a(c-3) = 0.$$

$$c = \frac{1}{a} + 3. \dots \text{答}$$

(2) (1)の結果から、

$$C: y = ax^2 - x + \frac{1}{a} + 3. \dots \textcircled{5}$$

Cの式で $y=0$ とすると、

$$ax^2 - x + \frac{1}{a} + 3 = 0. \dots \textcircled{6}$$

$\textcircled{6}$ の判別式を $D_3$ とすると、条件より、

$D_3 > 0$ であるから、

$$(-1)^2 - 4a\left(\frac{1}{a} + 3\right) > 0.$$

$$1 - 4 - 12a > 0.$$

$$3 + 12a < 0.$$

両辺を $a^2 (> 0)$ で割ると、

$$3\left(\frac{1}{a}\right)^2 + 12 \cdot \frac{1}{a} < 0.$$

$$3\frac{1}{a}\left(\frac{1}{a} + 4\right) < 0.$$

したがって、 $\frac{1}{a}$ のとり得る値の範囲は、

$$-4 < \frac{1}{a} < 0. \dots \text{答}$$

(3) (1)の結果から、 $\textcircled{1}, \textcircled{2}$ はそれぞれ

$$a\left(x + \frac{1}{a}\right)^2 = 0, a\left(x - \frac{1}{a}\right)^2 = 0$$

となるから、

$$P\left(-\frac{1}{a}, 3 \cdot \frac{1}{a} + 3\right), Q\left(\frac{1}{a}, \frac{1}{a} + 3\right).$$

また、 $\textcircled{5}$ より、

$$y = a\left(x - \frac{1}{2a}\right)^2 + \frac{3}{4a} + 3$$

であるから、

$$R\left(\frac{1}{2a}, \frac{3}{4a} + 3\right).$$

$G(x, y)$ とすると、 $G$ は $\triangle PQR$ の重心であるから、

$$X = \frac{1}{3}\left(-\frac{1}{a} + \frac{1}{a} + \frac{1}{2a}\right) = \frac{1}{6} \cdot \frac{1}{a}. \dots \textcircled{7}$$

$$Y = \frac{1}{3}\left[3 \cdot \frac{1}{a} + 3 + \left(\frac{1}{a} + 3\right) + \left(\frac{3}{4a} + 3\right)\right] = \frac{19}{12} \cdot \frac{1}{a} + 3. \dots \textcircled{8}$$

$\textcircled{7}$ より、

$$\frac{1}{a} = 6X.$$

これを $\textcircled{7}, \textcircled{8}$ に代入して、

$$-4 < 6X < 0, Y = \frac{19}{12} \cdot 6X + 3.$$

$$-\frac{2}{3} < X < 0, Y = \frac{19}{2}X + 3.$$

したがって、求める軌跡は、

$$\text{線分 } y = \frac{19}{2}x + 3 \quad \left(-\frac{2}{3} < x < 0\right). \dots \text{答}$$

3

- (1) 求める  $n$  のうち最小のものはサイコロの目の

$$1, 2, 3, 4(=2^2), 5, 6(=2 \cdot 3)$$

の最小公倍数の

$$n = 2^2 \cdot 3 \cdot 5 = 60$$

である。

よって、60の正の倍数を小さい順に3つ求めて、

$$n = 60, 120, 180. \quad \dots(\text{答})$$

- (2)  $n=1$  のときは不適であり、 $n$  が素数のときも素数の正の約数の個数は2であるから不適である。

1と素数を除く自然数  $n$  を小さい順に書き並べると、

$$4, 6, 8, 9, 10, 12, 14, 15, 16, 18,$$

$$20, 21, 22, 24, 25, 26, 27, 28,$$

$$30, 32, 33, 34, 35, 36, \dots$$

であり、このうち条件を満たすものを3つ求めて、

$$n = 12, 24, 30. \quad \dots(\text{答})$$

- (3) 1個のサイコロを3回投げたときの出た目を順に  $a, b, c$  とする。

このとき、目の出方は全部で

$$6^3 = 216 \text{ (通り)}$$

あり、これらは同様に確からしい。

このうち、積  $abc$  が  $160(=2^5 \cdot 5)$  の約数となる目の組合せと組  $(a, b, c)$  の数は次の表のようになる。

	目の組合せ	組の数
1	{1, 1, 1}	1
2	{1, 1, 2}	3
4	{1, 1, 4}, {1, 2, 2}	$3+3=6$
5	{1, 1, 5}	3
8	{1, 2, 4}, {2, 2, 2}	$3!+1=7$
10	{1, 2, 5}	$3!=6$
16	{1, 4, 4}, {2, 2, 4}	$3+3=6$
20	{1, 4, 5}, {2, 2, 5}	$3!+3=9$
32	{2, 4, 4}	3
40	{2, 4, 5}	$3!=6$
80	{4, 4, 5}	3
160	なし	0

よって、求める確率は、

$$\frac{1+3+6+3+7+6+6+9+3+6+3}{216} = \frac{53}{216}$$

…(答)

4

(1)  $X_1$  は、半径 2 (AC), 高さ 1 (CG) の円柱であるから、

$$V_1 = \pi \cdot 2^2 \cdot 1 = 4\pi. \quad \dots(\text{答})$$

また、 $X_2$  は、半径  $\sqrt{3}$  (BG), 高さ  $\sqrt{2}$  (AB) の円柱であるから、

$$V_2 = \pi \cdot (\sqrt{3})^2 \cdot \sqrt{2} = 3\sqrt{2}\pi. \quad \dots(\text{答})$$

(2) 平面  $x = t$  と線分 EF の共有点を P とおくと、  
 $0 \leq t \leq 1$  より点 P は線分 EF を  $1-t : t$  に内分する点である。

よって、 $E(1, 0, 1)$ ,  $F(0, 1, 1)$  より、求める点 P の座標は、

$$(t, 1-t, 1). \quad \dots(\text{答})$$

(3) 平面  $x = t$  ( $0 \leq t \leq 1$ ) と線分 EF, 線分 EH,  $x$  軸の共有点をそれぞれ P, Q, R とおく。

2点 P, Q は正方形の対角線 EG に関して対称であるから、

$$RP = RQ$$

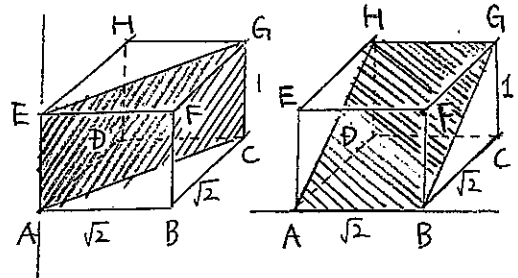
である。

よって、 $X_3$  の  $x \geq 0$  の部分の平面  $x = t$  による切り口は、 $R(t, 0, 0)$  を中心とする半径 RP の円である。

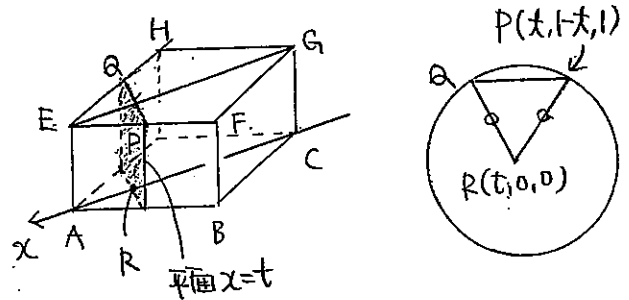
また、 $X_3$  は平面 BFHD に関して対称であるから、求める体積  $V_3$  は、

$$\begin{aligned} V_3 &= 2\pi \int_0^1 (RP)^2 dt \\ &= 2\pi \int_0^1 \{(t-1)^2 + 1\} dt \\ &= 2\pi \left[ \frac{1}{3}(t-1)^3 + t \right]_0^1 \\ &= 2\pi \left( 1 + \frac{1}{3} \right) \\ &= \frac{8}{3}\pi. \quad \dots(\text{答}) \end{aligned}$$

(1) の参考図



(3) の参考図



5

(1)  $0 \leq \alpha < \frac{\pi}{2}$  を満たす実数  $\alpha$  に対して,

$$f(\tan \alpha) = \frac{1}{2} \int_{-\tan \alpha}^{\tan \alpha} \frac{1}{1+u^2} du.$$

$u = \tan \theta$  ( $-\frac{\pi}{2} < \theta < \frac{\pi}{2}$ ) とおくと,

$$\frac{du}{d\theta} = \frac{1}{\cos^2 \theta} = 1 + \tan^2 \theta = 1 + u^2$$

であり,  $-\tan \alpha = \tan(-\alpha)$ ,  $-\frac{\pi}{2} < -\alpha \leq 0$  に注意して,

$u$	$-\tan \alpha \rightarrow \tan \alpha$
$\theta$	$-\alpha \rightarrow \alpha$

よって,

$$f(\tan \alpha) = \frac{1}{2} \int_{-\alpha}^{\alpha} d\theta = \frac{1}{2} [\theta]_{-\alpha}^{\alpha} = \alpha. \dots (\text{答})$$

(2)  $0 \leq x \leq 1$  を満たす実数  $x$  に対して,

$$0 \leq \alpha < \frac{\pi}{2} \text{ かつ } x = \tan \alpha$$

を満たす実数  $\alpha$  をとると, (1) より,

$$\tan[f(x)] = \tan[f(\tan \alpha)] = \tan \alpha = x.$$

さらに,  $-x \leq u \leq x$  に対して,  $\frac{1}{1+u^2} \geq 0$  より,

$$f(x) = \frac{1}{2} \int_{-x}^x \frac{1}{1+u^2} du \geq 0.$$

同様に,  $0 \leq y \leq 1$  を満たす実数  $y$  に対して,

$$\tan[f(y)] = y \text{ かつ } f(y) \geq 0.$$

また, (1) より,

$$f(1) = f\left(\tan \frac{\pi}{4}\right) = \frac{\pi}{4}.$$

よって,  $0 \leq x \leq 1$ ,  $0 \leq y \leq 1$  の下で, 次の同値が成り立つ.

$$f(x) + f(y) \leq f(1)$$

$$\Leftrightarrow \tan[f(x) + f(y)] \leq \tan[f(1)]$$

(なぜなら,  $\tan \theta$  ( $0 \leq \theta < \frac{\pi}{2}$ ) は単調増加)

$$\Leftrightarrow \frac{\tan[f(x)] + \tan[f(y)]}{1 - \tan[f(x)]\tan[f(y)]} \leq \tan[f(1)]$$

$$\Leftrightarrow \frac{x+y}{1-xy} \leq 1$$

$$\Leftrightarrow x+y \leq 1-xy$$

$$\Leftrightarrow (x+1)(y+1) \leq 2$$

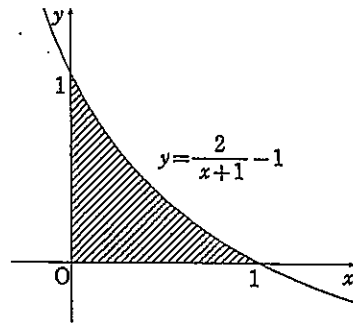
$$\Leftrightarrow y+1 \leq \frac{2}{x+1}$$

$$\Leftrightarrow y \leq \frac{2}{x+1} - 1.$$

よって, 与えられた領域は,

$$0 \leq x \leq 1, 0 \leq y \leq 1, y \leq \frac{2}{x+1} - 1$$

を満たす点  $(x, y)$  の集合で, 次の図の斜線部分 (境界含む).



また, この領域の面積は,

$$\int_0^1 \left(\frac{2}{x+1} - 1\right) dx = \left[2 \log(x+1) - x\right]_0^1 = 2 \log 2 - 1. \dots (\text{答})$$